

ものづくり日本大賞（青少年部門）内閣総理大臣賞受賞生徒を育成して
—高校生ものづくりコンテスト全国大会（旋盤作業部門）で
2年連続3度目の優勝を達成—

静岡県立科学技術高等学校
機械科 教諭 平岡 正夫

1 はじめに

『ものづくり日本大賞』青少年部門は『ものづくりの将来を担う高度な技術・技能部門』とし平成19年度に創設され、ものづくりに関する競技大会等において大臣賞などを受賞した者の中から特に優れた成果を収めた個人・団体から2年に一度選出される。いわば、この間の取り組みの内容に対し、国の名において激励を与える大きな賞である。したがって終選考会では日本を代表する科学技術やものづくりの分野の著名人によって厳格な審査を受ける。この初の栄誉ある内閣総理大臣賞に本校の村松昂紀君が輝き、昨年8月、官邸において直接安倍首相より手渡された。受賞対象は個人であるが学校の技術技能教育への取り組みやその姿勢等が同時に評価されたことでもあり、指導者はじめ工業教育関係者に大きな喜びと自信を与えた。その取り組みの経過や成果を報告したい。



写真1 安倍首相から直接表彰を受ける



写真2 旋盤競技大会

(写真は官邸熊野氏提供)

2 ものづくり日本大賞受賞経緯

平成19年 4月19日（木）静岡県教育委員会教育長へ候補者推薦書を提出
平成19年 7月17日（火）最終選考会（東京国際フォーラム）
平成19年 8月 3日（金）最終選考結果発表（文部科学省）
平成19年 8月10日（金）授賞式・祝賀会（首相官邸）
平成19年 8月27日（水）静岡県知事来校（取り組みの報告および実演）
平成19年 8月31日（金）NHKラジオ第一「ラジオタ刊」全国放送
平成19年11月22日（木）NHKテレビ「たっぷり静岡」中継放送
平成20年 4月18日（金）NHKBSテレビ「日本熱中クラブ」全国放送

3 取り組みと成果（推薦理由）

推薦案件である技術の優位性、創意工夫性、継続性、将来性、学習に対する意欲および態度の観点をふま次のような取り組みと成果を推薦理由として提出した。

（1）『第6回高校生ものづくりコンテスト全国大会』の旋盤部門での優勝への取り組み
作業分析、刃物研究、メンタル強化策などに取り組み2年連続3度目の全国を優勝した。



写真3 旋盤競技大会課題



写真4 手作りバイトの製作

(2) 技能検定への取り組み

機械加工職種の旋盤と仕上げ職種の機械組み立て2級に合格した。(推薦書提出時は3級) 偏心加工を含む旋盤2級の3時間の課題を1時間45分で満点作品を作る力をつけた。仕上げではきさげ作業もできる。学校としては、2級6名3級21名合格。

(3) 学んだ技術技能や知識を地域貢献などに活かす活動

簡易水門『巻き上げ機』を製作し腰痛に苦しむ方も多い農村から大変喜ばれ感謝状をいただいた。新聞でも紹介された。1年生であった村松君はその主要部品を作った。



写真5 技能検定本番・機械組立仕上げ



写真6 製作した巻き上げ機の主要部品

5 おわりに (生徒の育成について)

受賞した村松君はものづくり対し次のような姿勢を強く持っている。

- ① よいものを作る主体に自分になりたい。(蒸気機関車などに刺激を受けた。)
- ② 先輩ができた全国制覇を自分もしたい。(自分もできるはずとの信念)

生徒には、ものに食らいついて見る力、愚直に機械にへたりつく力(科学技術の根本原則)を要求している。生徒はそれを理解し実践しポリシーの共有化のレベルまで達した。

工業高校は技術技能教育の推進を唱いつつも技能に対してはそれを抑制させようとするねじれの力が働く。私はこれを『技能のねじれ』と名付け、原因を『技能への偏見』と分析し、これに負けない方法論、実践論を提示した。(機械教育研究会・技術史教育学会等) 同時に工業高校が技能伝承問題の本拠地にならぬようここ6年ほど技術講習会を展開している。『ものづくり日本大賞』受賞はそうした工業教育への取り組みの姿勢と方向性への評価と激励でもあり、生徒ばかりでなく指導者はじめ関係者にも大きな勇気を与えた。